

ドイツ港町紀行(2) フェリー基地として栄えるトラフェミュンデ

2025.8.27 池田良穂

あまり聞きなれない地名ではありますが、バルト海に面したドイツのリゾート地です。古都リュベックの外港に当たり、バルト海に面しているのでスウェーデン、フィンランド、バルト三国のリトアニアへのカーフェリーとRORO船の基地になっています。ここを最初に訪れたのは、フィンラインの大型高速カーフェリー「フィンジェット」が華々しく登場した1977年のことです。同船は、30ノットの高速を生かしてヘルシンキとトラフェミュンデ間を1泊で結び、それまで3隻で運航していたカーフェリーを1隻に削減して運航コストを抑えるとともに、ガスタービン機関を駆使した高速性を生かして同航路の旅客需要を倍増させたことで知られています。筆者がベルリンに留学した頃(1983年)も「フィンジェット」は世界最大かつ最高速のカーフェリーとして健在でした。その後、オイル価格の高騰で採算が合わなくなり、同船はディーゼル機関に換装され、さらに投入航路も変わりました。

現在、トラフェミュンデ港からスカンジナビアの各国への旅客カーフェリーを運航しているのは、前述のフィンラインをはじめTTライン、ステナラインの3社です。トラフェ川を遡ったところにカーフェリーおよびRORO貨物船用の港があり、河口の外の両岸には綺麗なビーチがあるため、ドイツ人のためのリゾート観光地になっています。河口から川沿いにホテルや飲食店が並び、ボートやヨットもたくさんみられます。川沿いのレストランやカフェでビールやワインを楽しむ目の前を大型のフェリーが行き交いますので、シップウォッチング・ファンには堪らない港町です。

川がほぼ南北に流れているため、午前中は東側の岸が、午後は西側の岸が、さらに日没が近くなると東側の岸が船の撮影にはよくなります。2ヶ所に渡船があるので、時間帯に合わせて両岸に位置を変えての撮影を行いました。



ハンブルクから列車でトラフェミュンデ・ハーフェン駅に到着して、河岸にいくと、ちょうど「ステナ・ホライゾン」が入港するところでした。写真の左が西岸、右が東岸です。



フィンラインの「フィン・パートナー」の入港です。



夕刻「ステナ・ホライゾン」が出港していきました。



スウェーデンのトレレボルクから TT ラインの「ニルス・ホルゲルソン」が入港しました。TT ラインの TT は、トラフェミュンデとトレレボルクの頭文字をとったものです。



トラフェミュンデの西岸の街並みです。小さなホテル、レストラン、カフェ、土産物店などが並んでいます。



早朝にフィンラインの RORO 貨物船「フィンミル」が入港してきました。東岸の河口での撮影です。



川の渡し船の一つで、旅客および自転車を積みます。乗船料は片道 2 ユーロ、約 340 円ほどでした。



TTラインの「ティンカーベル」の出港です。



西岸の川辺のカフェでビールを飲んでいたら、フィンラインの「フィン・スワン」が突然に顔を出しました。



出港する「フィン・スワン」の後ろ姿です。高いビルは、トラフェミュンデで唯一の近代的なリゾートホテルです。



入港する「ニルス・ホルゲルソン」。3 日目にスウェーデン航路は一巡して、すべての就航船の写真が撮れました。



「ステナ・フラビア」の入港です。



フィンラインの「フィン・パートナー」の入港です。上部構造は小さく見えますが、ドライバー等 300 名を乗せることができます。



トラフェミュンデの河口を眺めました。左が西岸、右が東岸です。



陽が沈んだ後、「フィン・レディ」が入港してきました。



川を車と人を渡すカーフェリーです。予備船も入れて4隻がいました。



朝日を浴びて入港する TT ラインの「ティンカーベル」です。



河口の東に広がるビーチです。



西のビーチには日光浴用の風よけシートが並んでいました。



保存帆船「パサート」と、入港する RORO 船「フィン・スワン」です。



トラフェ川を渡るカーフェリーと純客船です。純客船の渡しは河口付近にあります。



河口にはパイロットボートの基地がありました。



トラフェミュンデの遊覧船「ハンザ」(上)と「ハンゼキャット」です。1～2 時間の遊覧に就航しており、上流のリューベックまで行くコースもありました。